



体調が悪くなると嘔吐しやすいお子さんはこの病気のことがあります。今回は「アセトン血性嘔吐症(周期性嘔吐症)」についてのお話です。

アセトン血性嘔吐症(周期性嘔吐症)とは?

アセトン血性嘔吐症(周期性嘔吐症)は、昔は自家中毒とも言われていました。体調が悪くなったり、ストレスを感じたりすると、嘔吐しやすい子がこの病気の間隔には個人差があり、数日間、数日間に何度も繰り返すこともあれば、年に数回程度起こすこともあります。2~10歳くらいの子どもの多くみられ、思春期以降には自然に治まることが多いです。

入園・入学・進級など新しい生活をスタートさせる時期です。肉体的・精神的なストレスが原因となって子どもの体に異変が起こることがあります。



診断方法は?

まず問診で体調不良時やストレスがあるときに嘔吐しやすいかどうか確認します。家族に同じように嘔吐しやすい人がいるか聞くこともあります。胃腸炎など嘔吐を伴う他の病気の可能性もあるので、周囲の流行状況なども確認します。アセトン血性嘔吐症になるとケトン体が異常に増えるので、尿検査や血液検査(当院では尿検査)でケトン体を測定します。問診の結果を含めて総合的に判断します。1回のエピソードでは判断がつかなく、同じような症状が繰り返しあって診断されることが多いです。



アセトン血性嘔吐症の原因は?

体内に蓄えた栄養分(糖)を使い果たすと、脂肪が分解されてエネルギーとなります。その時に同時にアセトン(ケトン)という物質が生じます。このアセトン(ケトン)の量が血液中に増えすぎるとアセトン血性嘔吐症の主な原因と言われています。

アセトン(ケトン)が血液中に増えすぎると、一種の中毒症状のようなものを起こして吐き気が生じます。代謝機能が低い子供に発症しやすい、2~10歳に多くみられ、5~6歳が発症にピークと言われています。

精神的ストレスや緊張、風邪などの感染症、疲労によって食事が落ちたことなどで、体内に蓄えた栄養分を使い果たしてしまうと、脂肪の分解が進み、それにより血液中のアセトンが増えすぎることによって症状が出る、という代謝を含むメカニズムが乱れることで生じます。神経質な子や片頭痛を持っている子がなりやすいと言われているほか、遺伝的な要因もあることも指摘されています。



治療方法は?

アセトン血性嘔吐症には根本的な治療はないので、症状を抑えるための対処療法を行います。症状の出初めは嘔吐の前に吐き気や頭痛、腹痛などの症状を起切ることが多いので、吐き気止めや痛み止めなどの薬を服用したり、カロリーがある飲み物や経口補水液を少しずつ補給することで、大きな発作を防ぐことができます。

症状が重たくなってしまい、薬や水分も吐きだしてしまう時、脱水症状を起こしている場合は点滴で水分や糖분을補給します。症状が良くなってきてからは、こまめに少量ずつ水分を摂り、経口補水液やスポーツドリンクなどで糖分を補うことで数日のうちに症状が落ち着くことが多いです。発作が起きないようにこまめに糖分を補給したり、夕食を抜かないなど食事や生活のリズムに気を付けたりといった対策を取るようにしましょう。



どのような症状が出るの?

数時間、もしくは数日の間に、激しい嘔吐を繰り返すことが最も代表的な症状の一つです。まるで噴水のように吐しゃ物を噴き出すことが多いです。時には吐物に少量の胆汁や血液が混ざることもあります。嘔吐した後も吐き気が続き、嘔吐を繰り返すことでぐったりとして元気がなくなったり、顔色が悪くなったりします。口臭がリンゴが発酵したようなにおい(アセトン臭)になることも特徴の一つです。胃のむかつきや食欲不振、腹痛、発汗、低体温、下痢、頭痛、だるさなどの症状が出現することもあります。一旦症状が治まっても繰り返すことがあるので注意が必要です。



予防方法は?

空腹で糖分が不足すると、体内に蓄積していた脂肪が分解されてアセトン(ケトン)が増えてしまいます。それを防ぐためには、食事を抜いたり間隔をあけすぎたりしないように気をつけましょう。3食しっかり食べて睡眠を十分にとるなど生活を整え、ストレスを溜めこまないように心がけましょう。疲れた時にはしっかりと休息を取り、心身の健康を保つようにしてください。脂肪分の多い食品も発症に影響を与えることがあるので、チョコレートやコーヒーの摂りすぎにも注意が必要と言われています。ストレスを感じた時には甘いものを摂って、糖分を補給するのも発作予防として期待できます。



今月の絵本

クリニックの本棚にあるよー

もう おふろにはいる じかん? マリリン・ジャンピッツ 作
こだま ともこ 訳

ザンプリ、ジャブジャブ、ウオーウオー、キュッキュ
楽しい擬音語、擬声語がたくさん出てきます。まだ時計が読めない子でも、オオカミの眠るまでの楽しいひと時を尊像できる絵本です。



おしらせ

次回もおたのしみに~

発熱の症状で受診の時にはすぐに受診するのではなく、まずは電話にてご相談ください。現在、厚生労働省や医師会からの通達で、インフルエンザなどの迅速検査を積極的には行わない事になっております。どうしても検査が必要なおときには医師はガウンなど着用させていただきます。

新型コロナウイルスを疑っての受診がご希望の際は必ず下記の相談先に電話をしてください。
救急安心センターさっぽろ【受診相談】011-272-7119 (#7119)

